

平成25年度「いもち病」「ばか苗病」防除のチェックポイント

平成25年度も以下の点に注意して、「いもち病」防除を確実にし、被害を未然に防ぎましょう。
「ばか苗病」撲滅に向けて、抜き取り等のご協力をお願いします。

いもち病の耕種的防除

●本田（置き苗の処分）

補植用の置き苗は、苗が混んでいるため、いもち病が発病しやすく、危険な伝染源となる。不要な置き苗は、すばやく、堆肥化するなど適切に処分する【写真①】。



●畦畔（ゴミ処分）

代かき後畦畔に上げたゴミを適正に処分する【写真②】。



いもち病早期発見のチェックポイント

●水田内見回り時期

プラスチックを活用し効率的に

- 感染好適日の約1週間後に見回り
- 幼穂形成期5日後頃は見回り強化
- 病斑を発見したら【写真③④】、直ちに茎葉散布

- MBI-D剤(商品名：デラウス・ウィン・アチーブおよびこれらを含む混合剤)による防除効果の低下が懸念される場合は、同剤の使用を避ける。

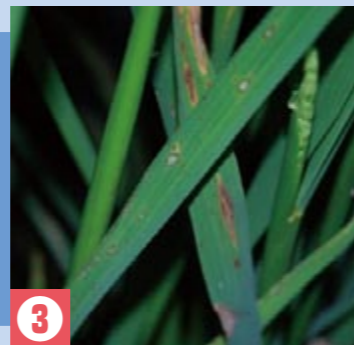
●見回り場所・方法

■いもち病が発生しやすい場所

- 昨年の発生場所
- 葉色が濃い場所
- 風通しが悪い場所

■ 株をかき分け下葉を重点的に観察する【写真③④】

葉いもち病斑



ばか苗病防除(対応)のチェックポイント

●ばか苗病の本田での病徴

苗床で発病せず、潜伏感染していた苗は移植後に本田で発病し、徒長症状を示す【写真⑤⑥⑦】。

発病株は出穂前に枯死し【写真⑧】、枯死株の茎、葉鞘、節などには白色～淡紅色の粉状のカビが発生する【写真⑨】。これが病原菌の胞子で、百メートル以上飛散して開花期の籾に感染し翌年の伝染源（種子伝染）となる。

●ばか苗病の対応方法

本田での発病株は株ごと根付きで抜き取る。抜き取りは【写真⑧】の段階では手遅れで、【写真⑤⑥⑦】の段階までに行い、出穂前に抜き取りを完了する。抜き取った株は、土中に埋める。

(本病は発病後に効果のある防除薬剤はないが、的確な種子消毒により防除できる。)

